［認知症対応型共同生活介護用］

1. 評価報告概要表

作成日　2009年12月17日

【評価実施概要】

事業所番号	1072100306
法人名	医療法人 光緑会
事業所名	グループホームラビットホーム
所在地	高崎市箕郷町富岡1427-1 （電　話）027-371-7040

評価機関名	特定非営利活動法人　　群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成21年11月26日

【情報提供票より】（ 平成21年10月15日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	平成11年7月20日	
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計　18　人
職員数	17　人	常勤 14人，非常勤 12人，常勤換算 13.97人

（2）建物概要

建物構造	木造平屋準耐火構造造り
	1 階建ての　1 階 ～　1 階部分

（3）利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃（月額）	60,000　円		その他の経費（月額）	水道光熱費 15,000円/月 外泊時一部減算
敷　金	無			
保証金の有無 （入居一時金含む）	無		有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	1日1,150円			

（4）利用者の概要（ 10月 15日現在）

利用者人数		18 名	男性	9 名	女性　9 名
要介護1		2 名	要介護2	4 名	
要介護3		6 名	要介護4	3 名	
要介護5		3 名	要支援2	0 名	
年齢	平均	89 歳	最低	73 歳	最高　98 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	やわたクリニック、小谷歯科医院、宮下皮膚科医院、綿貫病院　等

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

市内を一望できる閑静な丘陵地にホームがある。事業所の母体が医療機関であり、理念の一つに健康管理をあげている。医師は毎朝ホームに顔を出して、入居者一人ひとりの健康チェックを行っている。医師の献身的な行為は看護師を始めとする職員の連携を密にし、利用者や家族に多大な安心感を与えている。必要に応じて歯科、耳鼻科、皮膚科の往診も実施している。食事については月に一回栄養士の指導を受けて手作り、食欲をそそる盛りつけ、水分摂取量の確保等栄養改善に取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①

前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）

前回評価の課題を検討し、介護計画書の様式を変更したり、介護計画の作成にあたりサービス担当者会議を開催するなどの取り組みをしている。門と玄関の施錠については検討したが、利用者の安全性を考慮し現状を変えることは困難と判断している。

今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）

自己評価は、理事長、管理者、計画作成者の3者で作成しその後職員に回覧している。自己評価項目一つひとつを職員全員で点検し、サービスの質の向上に活かしていただきたい。

重点項目②

運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）

2ヶ月に1回開催され、ホームの近況や外部評価結果等の報告後に、意見交換がされている。家族より、職員の名札の字が小さいので大きくしてほしい、今日の食事の献立を表示してほしいという意見が出され、名札の文字は大きく書かれ、メニューは食堂のホワイトボードに記入するなど意見を活かしたサービスに取り組んでいる。

重点項目③

家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）

利用者の月次報告書を、毎月家族に郵送している。意見箱を玄関に設置している。また、面会や運営推進会議時に家族の意見や希望を聞くように心がけ運営に反映させている。

重点項目④

日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）

地域の各種ボランティアの慰問を受けたり、月に1回2名の介護相談員の訪問がある。地区の公民館で開催されるコンサートに参加したり、他のグループホームにボランティアの訪問がある時に出かけ交流している。利用者の安全を考慮して門は常時施錠されているので、地域の人が気軽に出入り出来る環境にはなっていない。

2. 評 価 報 告 書

（ ▒ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は、地域に支持される介護施設づくりを目指している。そのために心豊かでふれあいのある介護を行い、家族も安心できる環境作りをあげている。ラビットホームの名前の由来は、ウサギの持つ家族のぬくもりをイメージしてつけられている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	母体が医療機関であり、理念の一つに健康管理をあげている。医師が毎日ホームに来て、利用者の健康管理を行っている。運営者、管理者と職員は勉強会で理念を共有し意識づけを行い、日々の実践に取り組んでいる。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ピアニカ、ウクレレ、ハーモニカ演奏等の地域のボランテイアの受け入れや月に1回2名の介護相談員の来訪がある。丘陵地でありホーム前の道路は坂道のため、安全面を考慮して門は施錠しており、地元の人々との交流が少ない。	○	入居者が地域の一員として地域の方々と交流が持てるような取り組みを期待したい。
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は理事長、管理者、計画担当者で作成し、職員に回覧している。外部評価の要改善項目は検討し、介護計画書の様式を変更したり、計画の作成時にサービス担当者会議を開催するように改善している。	○	自己評価項目一つひとつを職員全員で点検し、サービスの質の向上に活かしていただきたい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2ヶ月に1回開催され、ホームの近況や外部評価結果等の報告後に、意見交換がされている。家族より職員の名札の文字が小さいので大きくしてほしい、今日の食事の献立の表示をしてほしいという意見が出され、文字を大きくしたり、食堂のホワイトボードに献立を記入するなど意見を活かしてサービスに取り組んでいる。	○	運営推進会議の構成員に、地域住民の代表として区長や老人会長などに入ってもらい、事業所の運営に地域の協力が得られるような工夫を期待したい。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	更新申請時や事故報告書提出時に訪問している。		
４．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	請求書発送時に、利用者の月次状況報告書（生活全般、行事やレクリエーションの参加、医療面、月2回の体重測定結果、その他の連絡事項）を同封している。利用者の暮らし振りを面会を通して知っていただくために、支払いは来所をお願いしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。お礼の手紙が1回入っていたことがある。面会や運営推進会議時に家族の意見や希望を聞くように心がけ、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	長期間の利用者が多く、職員の交代も少ない。65歳定年制で働きやすいこと、利用者の健康状態に関していつでも医師に連絡できる体制があること等、運営者が職員の異動等による影響を考慮し、離職を最小限に抑える配慮をしている。		
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画は決めていないが、行政から通知がある研修会には参加している。法人内では2ヶ月に1回テーマを決めて勉強会を開催し、職員を育てる取り組みをしている。消火器や福祉用具の扱い方、病気に関する基礎知識等を学んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会に加入し、グループホーム大会に参加している。他の事業者との交換研修は実施しなかったが、施設見学は行い、同業者との交流を通じたサービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事業主体が医療法人なので、医師からの紹介が多い。在宅の介護支援専門員の情報をもとに管理者、事業所のケアマネージャーが自宅を訪問し、本人の希望、日常の様子や環境等を確認している。家族にホーム見学をしてもらい、納得した上でサービス利用としている。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居歴が長い利用者は、家族同様、深い関係で結ばれている。外泊後ホームに戻ると「ここにいる方がほっとするよ」等の言葉が聞かれ、職員は癒されたり励まされたりする場面があり、支えあう関係を築いている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者担当制にしていないが、日々のかかわりの中で声かけして、一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。利用者から訴えがある時には記録し、毎週水曜日のミーテイング時に皆で話し合いを行い共有している。思いや意向の把握が困難な場合には、本人本位に検討している。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	利用者には日々の生活の中や会話からより良く暮らすための思いや意見を聞き、家族には面会時にお聞きしている。医師の参加もある2ユニット合同の会議で、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	「生活をより良くするための課題や現状」「援助目標」「具体的な援助内容」が記載された介護サービス計画書(2)を月の中旬にスタッフに配布し、スタッフはプラン通りにできているのか点検し、計画書に援助内容を記入している。毎週のミーテイング時に現状のままでよいか改善が必要かを検討し、必要時には新しい介護計画を作成している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
３．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制加算を活かして利用者にとって負担となる受診や入院の回避、早期退院の支援、医療処置を受けながらの生活の継続、重度化した場合や終末期の入院の回避等を行っている。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業主体の医師が、毎日来所または電話連絡し健康管理を行っている。歯科、耳鼻科、皮膚科の往診も必要に応じ実施している。訪問看護ステーションの看護師とクリニックの看護師が週に5～6回ホームにきて医師と連携しながら健康管理を行ない、適切な医療を受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方については、早い段階から家族や医師と話し合い、方針を共有している。終末期には家族にホームに滞在してもらい、安心して看取りが出来るようにしている。今まで5人の方の看取りを経験している。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 １．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報については、事務所内に保管し取り扱いに注意している。声かけ時は、本人の希望により苗字や名前で呼んでいる。排泄の訴えやトイレ誘導時等は、プライバシーに配慮した言動を心がけている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事以外は自室で過す人、新聞を読んでから部屋に行く人、テレビを観ている人、リビングで過ごす人、歌を歌っている人、お化粧をする人等、一人ひとりのペースを大切にし希望に添って支援している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は季節のものを取り入れ、利用者の希望を聞きながら作成している。秋刀魚や寿司、鰻等を食べ食事を楽しんだり、刻み食やミキサー食も盛り付けを工夫している。介護度が高い人が多く、食事準備や片付けなどは困難になっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は週に2回午後に実施しているが、水曜日以外であれば希望による実施が可能である。入浴を嫌がる利用者には時間を変えたり、別のスタッフが声かけを行っている。また、入浴剤を使用したり柚子湯等で楽しんでいる。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	重度化により、役割分担は困難になってきている。楽しみごと、気晴らしの支援として、ドライブ、ぶどうやイチゴや梨狩りなどに出かけている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの庭を散歩したり、庭の芝生を利用してお茶会やお昼を食べたりしている。ホームに入居している夫が、職員の送迎により別の施設に入っている妻を訪ねる支援を行ったことがある。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害は理解しているが、ホーム前の道路が危険（坂道でカーブしており、車がスピードを出す等）であるため、安全を考慮して門と玄関は常時施錠している。外部評価で改善項目として指摘されているが、現状を変えることは困難と考えている。	○	鍵をかけないで支援していく意識を持ちながら、今後も職員で鍵をかけることについての話し合う機会を持ち続けていただきたい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回避難訓練を実施している。1回目は夜間を想定した訓練で、連絡網により職員が外部から応援に駆けつける訓練をしている。2回目は消防署立会いのもとに通報、避難、消火訓練を利用者と行っている。災害時に、地域の人々の協力は未だ得られていない。	○	災害時に地域の人々の協力が得られるよう取り組みを期待したい。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量はもちろん水分摂取量も詳細に記録し、職員間で共有している。栄養士に月に1回来てもらい食事作りや会食をしながら、栄養摂取や水分確保について話し合っている。一人ひとりの状態に応じてミキサー食や刻み食を提供したり、水分補給の一環として寒天利用など工夫している。なお、昼・夕食前には嚥下体操を実施している。		
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内廊下の天井には、数箇所「オゾン殺菌消臭器」を設置している。ガラス窓が大きくて広い廊下では日光浴ができ、戸を開けるとバルコニーから外の景色がよく見える。バルコニーには椅子を設置してあり、自由な出入りにより居心地のよい空間を作り出している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は仏壇や好みの家具、テレビを設置し、本人が居心地よく自由に過ごせるように工夫している。		